

営農だより 野菜版 7号

JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
2022年（令和4年）7月5日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう！！

例年よりも22日早い6月27日に梅雨明けした事が気象庁により発表されました。今後は平年よりも気温が高くなる予想です。しかし、降雨が無くなるわけではありません。また、夏になると台風も多く発生します。**高温多湿は病害虫発生の原因**となるので、排水対策・防風対策・適期防除を行い、栽培管理に努めてください。

【栽培上の留意点】

1. 長雨・日照不足の条件下では、軟弱・徒長株の発生や、病害の多発が起こりやすいので、気象の推移と生育状況に十分留意しつつ、排水対策や病害虫防除対策を徹底する。
2. ほ場の観察を定期的に行い、適期防除に努める。農薬を使用する際には、ラベルに記載された使用基準を遵守し、他の野菜に飛散しないように散布する。
※同じ作物に同じ農薬を頻繁に使わないようローテーション防除を心がけましょう！
3. 果菜類（トマト、キュウリ、ナス等）では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。
4. 生育初期に被害を受けた場合は、予備苗による植替えや再び播種を行い、被害の軽減に努める。被害が著しい場合には、他の品種又は作物に転換することも検討する。

【主要品目の発生病害及び防除対策】

キュウリ⇒べと病

べと病：べと病は葉のみに発生する。高温多湿の施設栽培で発生が多く、淡褐色の丸い小斑点を生じ拡大していく。多湿下では暗色のカビを生じる。

炭疽病 炭疽病は葉、茎、果実に発生する。葉では黄褐色の円形大型病斑を生じ、後に白っぽくなり破れる。果実では、黄色のくぼんだ病斑を生じる。多湿下で病斑上に鮮肉色の粘着物を作る。

【防除例】

薬剤名	対象病害	倍率	1a当り 使用量	収穫前	使用回数	価格（税込）
プロポーズ顆粒水和剤	べと病、黒星病 うどんこ病	1,000倍	10~30ℓ	前日まで	3回	720円 (100g)
アミスター20フロアブル	べと病 炭疽病	2,000倍	10~30ℓ	前日まで	4回	3,550円 (250ml)
トップジンM水和剤	炭疽病 菌核病	1,500~ 2,000倍	10~30ℓ	前日まで	5回	1,100円 (250ml)

トマト⇒疫病、葉かび病

疫病：疫病は葉、茎、果実に発生し、葉にははじめ不規則な水浸状の病斑を生じ、拡大して暗褐色の大型病斑となり、白色のカビを生じる。20℃前後で降雨続きの際に発生する。

葉かび病：葉かび病は主に葉の裏に淡褐色、ビロード状のカビが密生した病斑が葉、茎に発生する。23℃前後で温室やビニールハウスの場合に発生が多く、露地でも高温期に多発する。

【防除例】

薬剤名	対象病害	倍率	1a当り 使用量	収穫前	使用回数	価格（税込）
ダコニール1000	疫病、葉かび病 炭疽病	1,000倍	10~30ℓ	前日まで	4回	980円 (250cc)
プロポーズ顆粒水和剤	疫病 葉かび病	1,000~ 1,500倍	10~30ℓ	前日まで	3回	720円 (100g)
リドミルゴールドMZ	疫病	1,000倍	10~30ℓ	前日まで	2回	3,150円 (500g)
アミスター20フロアブル	葉かび病 灰色かび病	2,000倍	10~30ℓ	前日まで	4回	3,550円 (250ml)

ナス⇒うどんこ病、灰色かび病、風害

うどんこ病：ナスのうどんこ病は下葉から発生し、葉面は初め小麦粉をまぶしたようになり、後に灰色となる。**気温28℃前後でやや乾燥気味の時に発生**する。

灰色かび病：灰色かび病は施設栽培で特に発生が多い。果実や葉についた古い花弁から始まることが多い。**曇雨天が続いて多湿になると多発**する。

風害：病害以外にも風の害により新芽が飛んでしまったり、樹勢が弱まったりした場合、液肥の散布や予防剤の散布を心がける。新芽が飛んでしまったものはわき芽を生かす。根元から飛んでしまったものは、苗が確保できれば植え替える。無ければ他の作物への植え替えも検討する。

【防除例】

薬剤名	対象病害	倍率	1a当り 使用量	収穫前	使用回数	価格（税込）
ダコニール1000	うどんこ病 黒枯病	1,000倍	10~30ℓ	前日まで	4回	950円 (250cc)
シグナムWDG	うどんこ病 灰色かび病	1,500倍	10~30ℓ	前日まで	3回	1,420円 (100g)
Zボルドー	すすかび病	500倍	10~30ℓ	—	—	1,010円 (500g)

根深ねぎの栽培

～根深ねぎの栽培は7月中旬ごろが定植適期です～

1. 栽培のポイント

- ・ねぎは、乾燥に強いが過湿に弱い為、**排水対策をしっかりと**行う。
- ・元肥より追肥に重点を置く。
- ・高温期には、あまり手を加えない。

2. ほ 場

- ・作土30～45cm。
- ・雨水が貯まらないよう、速やかに排水できるように排水溝等を設ける。

3. 畑の準備

- ・植え付けの2週間前には石灰窒素と苦土石灰を播く、土壌酸度を弱酸性にしておく。
- また粘土質の土壌や水はけの悪い土壌では、堆肥など有機資材を多く使用し改善しておく。

4. 施 肥

- ・クワ幅で深さ30cmの溝を掘る。溝は南北方向とする。畝間は135cm。

- ① ようりん(1握り/80cm)
- ② 堆肥(厚さ: 3～5cm)
- ③ 園芸化成(1.5握り/80cm)
- ④ 鶏糞(1握り/80cm)
- ⑤ 油かす(1握り/80cm)の、順番に播く。

※①～⑤まで播き終わったら、その上から3cm程度あい土(覆土)をする。

	資材名	規格	価格(税込)
堆 肥	牛ふん堆肥	15kg	530円
	富士高原有機ペレット(鶏糞)	15kg	298円
元 肥	粒状ようりん	20kg	2,840円
	菜種粕(油かす)粉	20kg	1,860円
	園芸化成S550	20kg	4,590円
追 肥	園芸化成S550	20kg	4,590円

5. 定 植

- ・葉指ぐらいの太い苗を植えることがポイント。
- ・株間は5cmとする。
※それ以上株間を広くするとねぎが太くなり過ぎてしまう。
- ・苗の向きは広がりを太陽に向ける。
- ・苗の根をあい土(覆土)に押し込む。
- ・少し土を入れて根を隠す→ワラを入れる(1掴みずつ溝に入れる)



定植時の苗の大きさ

◆ワラの効用◆

ワラを敷くことで**適度な水分の維持**や、土がねぎに直接当たり**色が悪くなるのを防ぐ**。また、通気が良くなることで病害虫を防ぐ効果がある。

6. 土寄せと追肥

土寄せは焦らず、ねぎが太くなってから行う。概ね30日間隔程度で全3回行い、10月下旬～11月上旬に最終の土寄せを行う。また、ねぎは雑草に弱いので土寄せに限らず、こまめに除草をする！！

※**注意** ねぎの分けつ部に土が入ると生育が極端に悪くなったり、腐敗したりするため、**土寄せは常に分けつ部の4～5cm下まで**する。

【1回目】8月下旬～9月上旬(親指程度の太さになったらポイント)

- ・園芸化成s550(1握り/160cm)を根もとに播き、土寄せをする。
- ・土寄せの時、反対側よりねぎにワラをあてがう。

【2回目】9月下旬～10月上旬(1回目より30日後が目安)

- ・ねぎが伸びてきて、曲がり始めた時期(暴れはじめたら)が適期。
- ・園芸化成s550(1握り/160cm)を根もとに播き、土寄せをする。
- ・裏側も土寄せする。このとき定植時に裏側に置いたワラを直して土寄せする。

【3回目】10月下旬～11月上旬(2回目より30日後が目安)

- ・ねぎが伸びてきて、曲がり始めた時期(暴れはじめたら)が適期。
- ・園芸化成s550(1握り/160cm)を根もとに播き、土寄せをする。

※**ねぎは完全に軟白されるのに30～40日かかるため、最後の土寄せは収穫から遡って30～40日前になる。**

7. 病虫害防除

アザミウマ類: 葉の表層をなめたり、吸汁したりして葉の組織を傷つける。被害部には**小さい黄白点**が現れる。発生加害は夏に多く現れる。被害がひどくなると、**葉全体が汚くなる**。

ハモグリバエ類: 成虫が葉から吸汁して点々とした**白い小点の痕**が残る。幼虫は葉の内部に潜って葉肉を食べながら進むため、不規則な**白い線状の食害痕**が残る。

さび病: 葉に長楕円形の1～数mm大の**橙黄色のやや隆起した小斑点**を生じる。春季と秋季に比較的低温で**降雨が多いと多発**する傾向があり、肥料が切れた株で発病が多い。

黒斑病: 茎葉に発生する。楕円形の病斑を生じ、淡黒色のスス状のカビが生じる。病斑より上部は枯れ上がる。**梅雨期と9月頃の台風時期に多く発生**する。草勢が衰えると発病が増加する。

【防除例】

薬剤名	対象病虫害	倍率	1a当り使用量	収穫前	使用回数	価格(税込)
スタークル粒剤	アザミウマ、ハモグリバエ	600g/1a	株元散布	定植時	—	1,210円(1kg)
ウララDF	ネギアザミウマ	1,000～2,000倍	10～30ℓ	前日	3回	2,280円(250g)
アミスター20フロアブル	さび病、黒斑病	2,000倍	10～30ℓ	3日前	4回	3,550円(250ml)
シグナムWDG	さび病、黒斑病	1,500倍	10～30ℓ	7日前	3回	1,400円(100g)